

堤防を築く

自分の財産を投じて堤防を築く人がいました。財力のある人が皆、そのような行いをするのではありません。人の役に立ちたいという思いが根本にあるものと思われます。愛媛県松山市と徳島県北島町の人のご紹介をします。

■石手川に堤防を築く（愛媛県松山市）

足立重信が重信川の改修と石手川の付替えを行って以降、重信川と石手川が出合う市坪はたびたび洪水に見舞われるようになりました。元和6年（1620）の洪水時にも被害を受け、市坪村の郷士・安長九郎左衛門は、村民の難儀を見るにつけ、自分の財産から米3千俵を村民に出役米として差し上げ、石手川の土手東西300間を修築しました。承応元年（1652）の洪水でも再び堤防が切れたため、九郎左衛門は残りの財産を投げ出して村民を激励して復旧に努めました。それにもかかわらず、延宝6年（1678）にも堤防が決壊したため、もはや財産のない九郎左衛門は松山藩に訴書を差し出しました。藩はこれまでの九郎左衛門の慈悲の行いを認め、堤防の完成を援助しました。この堤防は「安長堤」と呼ばれるようになりました。〈参考資料：郷編集委員会編「たちばなの郷」2003年など〉



安長堤跡 igit=2013 四国災害アーカイブス



安長堤の標識 igit=2013 四国災害アーカイブス



(地理院地図に加筆)

■旧吉野川と今切川に堤防を築く（徳島県北島町）

北島町は、旧吉野川と今切川にかこまれた平地で、ひょうたんのような形をしています。慶応2年（1866）8月の大水では各地で堤防が切れ、鯛浜付近では損田15町歩、家屋の倒壊・流失数十戸、流死数十人などの被害が出ました。当時の堤防は低かったため、大水の度に被害を受けていました。鯛浜村の新見嘉次郎は、困り果てた村人の様子を見て大きな堤防を築くことを決意し、里長や7か村の庄屋に熱心に説いて同意を得ることができました。嘉次郎は自らの財産を投げ出して工事費用に充て、村人とともに明治4年（1871）から工事を始め、翌年に北島町をとりまく大工事を完成させました。鯛浜には新見嘉次郎の功績碑が建立されています。〈参考資料：板野郡教育会「板野郡誌」1926年及び北島町学校教育研究会小学校社会科副読本編集委員会編「わたしたちの北島町」2010年など〉



新見嘉次郎の功績碑



(地理院地図に加筆)